

保護者が子供に スマートフォン等を 与える入学前は 注意喚起の絶好の機会

入学や進級に合わせて、「お祝い」や「緊急連絡用」として、スマートフォン、通信機能のあるゲーム機等を子供に買い与えるご家庭は少なくありません。ネットトラブルを未然に防ぐため、特に、卒業する前のこの時期に学校から保護者への情報提供や注意喚起をしておきたいものです。

与えてからでは戻りにくい

子供にスマートフォン等を与える際には、コミュニケーション能力や社会的な判断能力の発達段階に合わせて、機能やアクセス先の制限を設定することが鉄則です。しかし多くの家庭では、「いずれ本格的に使うようになってから」、「子供の自主性に任せる」などと考え、なんの制限もせずに使わせ始めてしまいます。

その後、周囲のトラブルなどを見聞きして、あわてて制限をかけようと思っても、「いったん味わった自由が奪われる」と受け止める子供に対して、スマートフォン等を取り上げて制限設定したり、その意義を説明することには多大なエネルギーが必要となってしまいます。

厳しい設定で始め、次第に緩めていく

フィルタリングやアプリの利用可否など、スマートフォン等に標準で備わっている制限機能は、「かける」「かけない」の二者択一ではなく、年齢や発達に応じて厳しさを調節できます。

機器の与え始めは最も厳しい設定から始め、子供に使わせても良いと保護者が思える機能やアクセス先を、一つずつ解除していくという使い方を基本と考えると良いでしょう。

こうした手間をかけることで、保護者が、子供の利用状況を把握し、トラブル時には真っ先に受け止めてあげられることが期待できます。



指導の要点

各家庭での子供へのスマートフォン等の買い与え方について、学校が関わる機会はほとんどありません。しかし、入学前・進級前のこの時期に、通信や説明会などを利用して、上記のような考え方を保護者に伝えることで、入学・進級後に起きるインターネット利用上のトラブルを減らすことができると考えられます。

また、スマートフォン等を「買い与え」るのではなく、「貸し与え」に変えるというのも、効果的な提案です。「親元を離れるまでは、保護者の所有物を貸している」ことを子供に認識させることにより、制限設定に必要なパスワードなどの管理を、保護者によって掌握することが可能になります。